



介護福祉士や保育士 奨学金利用者と懇談

生命保険協会青森県協会

介護福祉士や保育士を
指す学生を応援する奨学金
事業に取り組む生命保険協

奨学金利用者と野田淳
会長(中央)らによる
懇談会18日、青森市

会青森県協会(野田淳会長)は18日、青森市で利用者の懇談会を開き、2025年度の卒業予定者4人を含む短大生ら6人が今後の活躍を誓った。

協会は介護や保育の担い手確保に貢献しようと、地元学生対象の給付型奨学金制度を設ける。介護福祉士の志望者向けは1989年度、保育士向けは2017年度に創設し、これまでに県内の160人が利用した。

懇談会では学生が1人ずつ登壇し、今後の抱負を語った。4月から東北町の特別養護老人ホームで働く、八戸学院大短期大学の村潤さん(20)は「金銭的な不安を解消して勉強に集中できた。安心を届けられるような介護福祉士になりたい

い」と意気込んだ。

野田会長は取材に「学生の話聞き、取り組みを続けていくことの大切さを痛感した」と話した。

(加藤弘也)